



東京部会 (第 52 回)

日 時:	2012 年 10 月 23 日 (火) 19:00-21:00
場 所:	日本大学経済学部 7 号館 13 階会議室 3
参加者:	加藤(日大)、野間(同志社大)、栗原(東洋大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、高橋(桜修館中等教育)、升野(筑波大学附属中学校)、大川(川口市里中)、石山(東証)、榊原(東証)、中沖(清水書院)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

- 新井先生より、配布資料「東京部会レポート」に基づき、来年(2013年)の「夏休み経済教室」のスケジュールを提案し、それについて議論があり、各地域の事情に応じた調整がなされた。内容についても、色々な提案があり、来月もさらに調整を続けることとなった。

また、学会発表に関する配布資料「大学入試問題と高校経済教育」(山崎先生中心のまとめ)を、新井先生が簡単に説明。さらに、この発表について、学会に参加した栗原先生が感想を述べられた。

さらに、経済関係の情報として、岩田・水野編『教員養成における経済教育の課題と展望』が紹介され、また配布資料「経済に強い社会科教員の育て方」(新井)の要旨も簡単に解説された。
- これからの予定に関して、このところ動いていないWSをどうするかが議論された。

続いて、来年3月23日(土)に予定されている年次大会で取り上げられる「法教育と経済教育の対話その2:労働市場」(コーディネーター:中川先生)について、中川先生のメールのメッセージも含めて検討が行われた。中川先生が示唆された2人の学者以外の参加メンバーについても議論され、進め方としては、議論の整理のために、最初に経済学と法学のそれぞれの目的、手法、特徴を簡単に解説してから、その一つの応用として労働分野を取り上げるというアプローチがよいのではないかとの意見があった。
- 宮尾より、最近大学1~2年生のクラスで行った行動経済学について簡単な実験が報告された(詳細は、オープン討論室の投稿参照)。このような実験は、各人が合理的に行動するという前提で、需要曲線を求める方法としても利用できるし、また今回のように、最初に目にした無関係な数字がその後の行動に影響し、需要曲線にも影響することを示して、両方どちらの場合についても生徒たちの興味をかきたてるのに役立つのではないかという示唆があった。
- 最後に、宮尾より、今年度のノーベル経済学賞受賞者ロイド・シャプレーとアルビン・ロスの業績に関して、最近発売された新書『経済学の思考法』(小島寛之著、講談社、2012年)の「協力ゲーム」の説明の部分が示され、簡単な解説があった。この2人の学者は、市場での取引になじまない問題(例えば臓器移植)について、どのような方法で、効率かつ公正な配分を達成するかという難しい問題に、理論的にも政策的にも貢献した功績が認められたとのこと。

(文責:宮尾尊弘)

次回開催予定: 11月20日(火)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部7号館13階会議室)。議題は、来年3月の大会および来年夏の経済教室の詳細の検討、参加者からの活動報告、その他。